

訓点語学会

第一二四回研究発表会

◇日時 令和三年五月二三日（日）午前九時三十分～午後六時

◇会場 ZOOMによるオンライン開催

◇参加定員 一五〇名（一般の方も参加可能）

◇参加費 無料（事前の登録が必要です）

※詳細は機関誌『訓点語と訓点資料』第一四六輯・訓点語学会ホームページを「閲覧」せよ。
(<http://www.kuntengo.com/>)

○研究発表

一、ベトナム語による漢文読解について

九時三十分

二、唐招提寺史料「家屋資財請返解案」について

軽部 利恵 十時五分

—文章と仮名をめぐって—

グエン・テイー・トゥー・フエン

三、「フサグ」と「フタグ」の意味用法について

胡 鴻洋 十時四十分

四、藤原忠実『殿暦』古写本の資料性について

柳原恵津子 十一時十五分

—漢字仮名交じり表記部分に着目して—

五、平安時代の万葉仮名と「フ」の音価

鈴木 裕也 〇時四十分

六、漢語「富貴」の語形について

坂水 貴司 一時十五分

七、金澤文庫本『白氏文集』の漢字音について

鄭 門鎬 一時五十分

—仮名音注・声点を中心に—

八、合点を手がかりとする「字鏡集」の検討・続

伊藤 智弘 二時三十分

—朱筆合点について—

九、『本草和名』諸本の研究・補論

武 倩・丸山裕美子 三時五分

十、『雅言集覧』における『栄花物語』用例

平井 吾門 三時四十分

○講演

国語史研究における抄物への道

木田 章義 四時三十分

○総会

五時三十分

〒六〇六一八五〇一

京都市左京区吉田本町

京都大学文学部国語学国文学研究室内

訓点語学会